

令和 5 年 6 月 14 日現在

機関番号：34428

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2022

課題番号：19K13816

研究課題名（和文）海外における自動車部品サプライヤーの取引先の多角化プロセス

研究課題名（英文）Diversification process of auto parts suppliers' business partners overseas

研究代表者

畠山 俊宏（Hatakeyama, Toshihiro）

摂南大学・経営学部・准教授

研究者番号：90626764

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、海外における自動車部品サプライヤーの取引先の多角化プロセスを明らかにすることである。

研究の結果、自動車部品サプライヤーの海外子会社が新たな取引に至るプロセスは、親会社主導型、海外子会社主導型、親会社・海外子会社連携型の3種類があることが明らかになった。また、新たな取引の開始に至るプロセスには、親会社の役割付与、親会社による支援、海外子会社の意思決定、現地環境という4つの要素が関係していた。そして、取引先の多角化プロセスの種類ごとに関係する要素は異なっていた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、親会社・海外子会社連携型という従来の海外子会社進化論の研究には見られない進化プロセスを明らかにしたことである。先行研究においては、親会社の主導による進化と海外子会社の主導による進化は指摘されていたが、両社が連携する進化は示されてこなかった。

社会的意義としては、海外子会社が販路を増やしていくことの重要性である。国内だけでは売上の大きな増加は見込めないが、海外においては国内の取引にとらわれずに新たな販路を拡大することによって企業の成長を目指すことができると考えられる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to identify the diversification process of auto parts suppliers' business partners overseas.

The results of the study revealed that there are three types of processes that lead to new transactions by overseas subsidiaries of auto parts suppliers. The first is the parent company-led process. The second is the overseas subsidiary. The third is the parent company/overseas subsidiary collaboration type. In addition, four factors were involved in the process leading to the initiation of a new transaction. The first was the parent company's assignment of a role, the second was support by the parent company, the third was the overseas subsidiary's decision-making, and the fourth was the local environment. And the elements involved in each type of transactional diversification process were different.

研究分野：国際経営論

キーワード：タイ 新興国 海外子会社の進化 取引先の拡大 自動車部品サプライヤー

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

自動車産業の海外進出は活発に行われており、完成車の海外生産も増加を続けている。それに伴い「自動車産業の国際化」に関する様々な研究成果が発表されている。

自動車産業の国際化に関する研究は、1.国別の自動車産業の発展(塩地編:2008、西村・小林:2016)、2.完成車メーカーの海外進出(折橋:2008、岩田・時:2009、梶山:2009、川邊:2011、石井:2013、野村:2015、上山編:2015)、3.サプライヤーの海外進出(新宅・大木:2012、金:2015、加藤・伊藤・朴・下野:2015、木村:2016、佐伯:2017)などが発表されている。

これらの先行研究によって、1.自動車部品サプライヤーの海外進出は完成車メーカーの海外進出に合わせた随伴進出が多いこと、2.海外における自動車部品サプライヤーの集積が自動車産業のグローバルな競争優位の構築に貢献していること、3.現地のローカルサプライヤーからの調達が少ないことなどが明らかになってきた。

一方で、課題としては自動車部品サプライヤーの海外子会社による役割の進化が十分に明らかになっていないことが挙げられる。海外進出後に新たな取引関係を構築しているサプライヤーも存在するが、どのようなプロセスを経て新たな取引の構築に至ったのか十分に明らかになっていないのである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、自動車部品サプライヤーの海外子会社による取引先の多角化プロセスを明らかにすることである。

3. 研究の方法

研究の方法として下記の3点に取り組んだ。

分析フレームワークの検討

海外子会社進化論を応用して、海外子会社が取引先の多角化に至るプロセスを分析するためのフレームワークを構築した。

本社に対するインタビュー調査

自動車部品サプライヤーの本社に対してインタビュー調査を行った。本社は海外子会社に与える役割をどのように変化させてきたのか、海外子会社にどのような支援を行ってきたのかについて確認した。

海外子会社に対するインタビュー調査

自動車部品サプライヤーのタイの海外子会社に対してインタビュー調査を行った。海外子会社による取引先の多角化の経緯について確認した。

4. 研究成果

研究の結果、以下の2点が明らかになった。

海外子会社進化論を応用した分析フレームワークの有効性

海外子会社による取引先の多角化を「海外販売・海外生産の進化」という海外子会社の進化の一形態として捉えた。そこで、海外子会社進化論の代表的な先行研究である Birkishaw and Hood(1998)の海外子会社進化論の枠組みを応用した分析枠組みを提示した。

第1に親会社が国内で営業活動をするなどして新規取引先を開拓して海外子会社に新たな取引を指示するという「親会社の役割付与」である。

第2に親会社からの継続的な技術移転による海外子会社の能力向上の支援といった「親会社による支援」である。

第3に海外子会社が現地で営業をしたり新たな取引の打診を受けるなど、現地において新規取引先を開拓し親会社がそれを追認するという「海外子会社の意思決定」である。

第4に完成車メーカーやサプライヤーの集積度合い、日本人会などを通じた人的ネットワークの広がりといった「現地環境」である。

フレームワークに基づいた分析の結果、海外子会社の取引先の多角化プロセスは3種類あることが明らかにできた。これにより、海外子会社進化論を応用した分析が有効であったといえる。

海外子会社の取引先の多角化プロセスの類型

海外子会社が取引先を多角化するプロセスは3種類あった。第1のパターンは親会社主導型である。親会社が現地の新たな取引の機会を認識し、国内において新規取引を開始し、海外子会社に指示するというパターンである。親会社主導型に関わる要素は、親会社による役割付与と現地環境であった。

第2のパターンは海外子会社主導型である。現地には新たな取引の機会が多く、海外子会社が現地において新規取引先を開拓し、親会社がそれを追認するというパターンである。海外子会社主導型の要素は、海外子会社の意思決定と現地環境であった。

第3のパターンは親会社・海外子会社連携型である。現地には新たな取引の機会が多く、海外子会社が現地で打診を受けた後、親会社の支援を受けながら連携して新たな取引を開始するというパターンである。親会社・海外子会社連携型の要素は、親会社による役割付与、親会社による支援、現地環境であった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 島山俊宏	4. 巻 第27巻
2. 論文標題 海外における自動車部品サプライヤーの成長戦略 タイにおける取引先の拡大	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アジア経営研究	6. 最初と最後の頁 115-127
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 島山俊宏	4. 巻 第26巻
2. 論文標題 海外子会社における複数の職能が関連する進化プロセス タイにおけるいすゞ自動車を事例に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジア経営研究	6. 最初と最後の頁 49-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 島山俊宏	4. 巻 第28巻1・2号
2. 論文標題 中小自動車部品サプライヤーによる合併企業を通じたタイ進出	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 経営情報研究	6. 最初と最後の頁 121-128
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 島山俊宏	4. 巻 第27巻1・2号
2. 論文標題 海外子会社進化論における研究動向の検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 経営情報研究	6. 最初と最後の頁 119-130
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 畠山俊宏
2. 発表標題 自動車部品サプライヤーの海外市場開拓戦略
3. 学会等名 多国籍企業学会第74回西部部会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 畠山俊宏
2. 発表標題 海外研究開発拠点の役割と進化：アジア新興国における日本企業の事例
3. 学会等名 自動車サプライヤーシステム研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 畠山俊宏
2. 発表標題 海外における自動車部品サプライヤーの成長戦略 タイにおける取引先の多角化
3. 学会等名 アジア経営学会第27回全国大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 畠山俊宏
2. 発表標題 合併企業を通じた中小自動車部品サプライヤーのタイ進出
3. 学会等名 工業経営研究学会第35回全国大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 畠山俊宏
2. 発表標題 マレーシアにおける自動車部品サプライヤー による取引先の多角化
3. 学会等名 産業学会自動車産業研究部会（中部）第1回研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 畠山俊宏
2. 発表標題 海外子会社進化論における研究動向の検討
3. 学会等名 多国籍企業学会第12回全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 畠山俊宏
2. 発表標題 海外子会社における生産活動から開発活動への進化プロセス - タイにおけるいすゞ自動車を事例 -
3. 学会等名 アジア経営学会第26回全国大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 畠山俊宏	4. 発行年 2022年
2. 出版社 三恵社	5. 総ページ数 186
3. 書名 海外研究開発拠点の役割と進化：アジア新興国における日本企業の事例	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------